

都道府県の認知度が 高い県・低い県

日本人の常識として、都道府県名とその位置くらいは理解しておきたいものだが、大人でも満足に知らない人が多いのは嘆かわしい。二〇〇七年に国立教育政策研究所が全国の小学生を対象に、都道府県名とその位置の認知度を調査したところ、全問正解者が一五%にも満たなかったという。社会科学の授業で日本地理を習っている現役の小学生がこの有様だから、大人はもっと知らない可能性がある。

それより五年前の二〇〇二(平成十四)年も、地図帳などを出版している帝国書院が同じような調査を行っている。都道府県境の線だけが引かれている白地図に、都道府県名を記入させて認知度を調べるといふものだ。全国の小学校高学年の一万二千人を対象に実施しているのだから、かなり精度が高いデータだと言える。正解率が最も高かったのは北海道で九九・一%。ほ

とんどの小学生が北海道だけは知っていたようだ。ところが、東京都の認知度は六三・六%(第六位)に過ぎなかった。日本の首都の位置も分からない児童が、四〇%近くもいるというのは驚かされる。正解率が最も低かったのは福井県の二七・六%だった。

都道府県別の正解率を見ると、西日本より東日本のほうが正解率が高い。東日本は一県当たりの面積が広いので、記憶に残りやすいのだろうか。北海道から東北、関東、中部と、北から南へ向かって順に教えていくという学校の授業方法にも原因があるらしい。県の形に特徴があると覚えやすいようだ。それは正解率が証明している。例えば、独特な形をしている本州最北端の青森県の正解率は三位(八九・四%)だが、同じ東北でも山形県の正解率は十七位(四〇・八%)。また、九州では最南端の鹿児島県は九位(五三・九%)という高位置につけているものの、すぐ隣の宮崎県は三十九位(二三・四%)と低い。別の調査では、宮崎県が最下位というデータもある。

と上位にランクされているが、隣の富山県は三十四位(三三・三%)、福井県は最下位という悲惨な結果が出ている。関東では、房総半島を県域とする千葉県は八位(五五・六%)なのに、北に隣接する茨城県は二十位(三九・八%)。日本の主要な県である神奈川県が二十五位(二六・三%)、愛知県が二十七位(三五・五%)、福岡県が三十一位(三四・三%)というのも寂しい。神奈川県より横浜市、愛知県より名古屋市のほうが知名度が高いということも原因しているのだろう。また、福岡、福井、福島というように、同じ文字の県名は間違われやすく不利だという結果も出ている。隣県と混同している人も少なくなかったようだ。例えば、関東の人は山陰の鳥取県と島根県を間違えやすく、関西の人は群馬県と栃木県の位置関係がよく分からないらしい。

ただ言えることは、学校の授業で都道府県名を丸暗記させても、興味があればすぐに忘れてしまうだろう。そこで、有名人の出身地と関連付けて覚えさせると案外興味を持ってくれるかもしれない。また、日本のシンボルの富士山はどこにそびえている山なのか、その位置を確かめることで山梨県と静岡県も同時に覚えさせることができるのではないだろうか。なにはともあれ、地図にはいろいろな情報が詰め込まれているので、社会科学の授業で地図のおもしろさをじっくりと教えてやってほしい。

* 都道府県の認知度

都道府県名	認知度 (%)	順位
北海道	99.1	1
青森	89.4	3
岩手	63.9	5
宮城	43.3	13
秋田	59.3	7
山形	40.8	17
福島	41.9	15
茨城	39.8	20
栃木	32.4	38
群馬	34.5	29
埼玉	39.1	21
千葉	55.6	8
東京	63.6	6
神奈川	36.3	25
新潟	64.5	4
富山	33.3	34
石川	50.6	11
福井	27.6	47
山梨	28.9	46
長野	47.1	12
岐阜	31.1	40
静岡	36.2	26
愛知	35.5	27
三重	30.8	42
滋賀	40.9	16
京都	37.9	24
大阪	50.8	10
兵庫	34.3	30
奈良	31.1	41
和歌山	32.6	37
鳥取	38.8	22
島根	29.1	45
岡山	32.9	35
広島	40.2	19
山口	42.2	14
徳島	30.6	43
香川	33.9	32
愛媛	32.7	36
高知	38.0	23
福岡	34.3	31
佐賀	29.5	44
長崎	35.4	28
熊本	40.3	18
大分	33.9	33
宮崎	32.4	39
鹿児島	53.9	9
沖縄	93.8	2